
JSA 第23回東京科学シンポジウム

2025年12月6-7日 日本科学者会議東京支部

理性と希望の平和な時代を拓く

—理性的ルールにもとづいた社会をめざして—

開催日時：2025 年 12 月 6 日（土）～12 月 7 日（日）

会 場：中央大学多摩キャンパス（八王子市東中野 742-1）

主 催：日本科学者会議東京支部

※日本科学者会議 60 周年記念行事の一環でもあります

3rd サーキュラーの発行にあたって

第 23 回東京科学シンポジウムの概要が確定しましたので、3rd Circular を発行して、すべての会員の皆さんと非会員を含む市民の方々に参加を呼びかけます。

以下で紹介します通り、特別報告 2 件、15 の分科会を中心に様々な企画を、会場である中央大学多摩キャンパスで開催します。またシンポジウムの記念企画として 11 月 26 日には、演奏家をお招きして音楽コンサートも開催します。

魅力的な講演や研究発表、文化企画などが揃っていますので、是非知り合いの皆さんをお誘いあわせの上、ご参加ください。

実行委員一同

1. 開会式 12 月 6 日（土）13:15-13:25 GG701 号 ※オンライン併用

米田貢 実行委員長よりご挨拶

2. 特別報告 12 月 6 日（土）13:25-17:25 GG701 号 ※オンライン併用

1) 早尾貴紀さん（東京経済大学教授）：

ガザ実験室——占領テクノロジーからジェノサイド・テクノロジーへ

2) 羽場久美子さん（青山学院大学名誉教授・城西国際大学特別名誉教授）：

戦後 80 年、加害と被害、日本の軍事化の危険性

3. 分科会 12 月 6 日（土）午前、12 月 7 日（日）午前、午後（グローバル館 GG）

分科会の開設日時と会場						
		12月6日（土）		12月7日（日）		オンライン併用
		10:00～12:15	10:00～12:15	13:15～15:30	15:45～18:00	
1	「力による平和」論でない新しい平和論を構築するために語り合おう			GG603	GG603	
2	気候危機・エネルギーと市民の生活改善	GG504				有
3	科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part17—			GG503		有
4	科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語るpart18—			GG504	GG504	有
5	生成AIの社会生活への浸透は何をもたらすのか				GG503	
6	リニア中央新幹線の現状と課題		GG604	GG604		有
7	ポスト冷戦後の国際政治経済秩序をめぐって				GG602	
8	激動する世界と日本経済	GG503				
9	新自由主義が横行する福祉分野での小規模福祉事業所の経営実態と労働者の賃金・労働条件		GG504			
10	リレートーク『東京都政の論点』—赤ちゃんが大人になるまで—	GG602				有
11	(分科会設置者側の事情により取下げ)					
12	軍学共同の現段階と対抗運動の課題				GG604	有
13	大学の若手研究者による研究・運動交流			GG601		有
14	非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part3	GG603				有
15	日本の高等教育問題を考える		GG503			有
16	日本科学者会議における会員の人権尊重の検討～ハラスメントを考える～			GG602		有
展示	日本キューバ友好の展示	GG502	GG502	GG502	GG502	
	似顔絵コーナー	午前F405/午後GG501（兼用）	F405	F405	F405	
会員控室		午前F405/午後GG501（兼用）	F405	F405	F405	
実行委室		GG501	GG501	GG501	GG501	

【1】分科会名：「力による平和」論でない新しい平和論を構築するために語り合おう

・設置責任者：金子勝（立正大学分会）

・連絡先：walkbeforeme171 あ gmail.com（担当：田島） ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：覇権国家アメリカを中国から守るために、トランプ大統領政権が打ち出した「力による平和」や「アメリカ・ファースト」は、大国の侵略戦争や核軍拡を容認し・正当化し、「第三

次世界大戦（第一次世界核戦争）」の道を拓くことを可能とするイデオロギーである。

アメリカと 2024 年 4 月 10 日に「軍事的グローバル・パートナーシップ」を結んだ日本国の国家は、中国との戦争を前提条件にして、国のすべての分野を軍事化する「軍国主義」を推進している。

「第二次世界大戦」後の国際連合憲章に基づく世界平和秩序と日本国憲法に基づく日本平和秩序が壊されようとしている今日、「力による平和」論ではない新たな平和論を構築するために、みなさまと語り合いたいと考えている。

12 月 7 日（日）13：15～18：00 GG603 号

座 長：金子勝（立正大学分会）

13：15～13：20 座長あいさつ

13：20～13：45（1）栗山究（法政大学非常勤講師）：揺らぐ市民の権利と博物館：市民ネットワーク調査から見える課題を語り合う

13：45～13：50 質疑応答

13：50～14：15（2）田島治（武蔵野憲法ゼミナール）：「軍事力必要論」をどう乗り越えるか

14：15～14：20 質疑応答

14：20～14：30 <休憩>

14：30～14：55（3）柴田真佐子（日本婦人団体連合会）：平和・ジェンダー平等を求めて

14：55～15：00 質疑応答

15：00～15：25（4）金子勝（立正大学分会）：「対話による平和」論を 21 世紀の平和論に

15：25～15：30 質疑応答

15：30～15：45 <休憩>

15：45～18：00 自由討議

【2】気候危機・エネルギーと市民の生活改善

・設置責任者：佐川清隆（東京大学分会）

・連絡先：kinomotosakura0401 あ hotmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：気候危機は深刻な被害をもたらしている。更なる電力需要増につながるデータセンターなどの建設は近隣住民にも不安を与えている。他方、気候危機の解決に重要な太陽光発電や風力発電への近隣住民による反対も少なくない。

加えて、電力・エネルギー価格の高騰が人々の生活を苦しめている。海外では「エネルギー貧困」の解決は重要な研究・政治課題であるが、日本では注目が低い。

本分科会は JSA-Climate ACT と共催で、こうした気候危機・エネルギーに関わる課題を、住民の生活改善を重視する立場から議論する。

12 月 6 日（土）10：00～12：15 GG504 号

座 長：佐川清隆（東大分会）

10：00～10：05 座長あいさつ

- 10：05～10：30（１）福井富久子（FEC 自給圏ネットワーク）：「風力発電計画について考えてみるシンポジウム」を開催して
- 10：30～10：55（２）石綿勇（武蔵野通研分会）：昭島市の巨大物流・データセンター建設問題と住民反対運動
- 10：55～11：20（３）歌川学（産業技術総合研究所）：地域・家庭における新技術にも我慢にも依存しない地域
- 11：20～11：25 <休憩>
- 11：25～11：50（４）古賀勇人（一橋大学）：日本におけるエネルギー貧困とは何か
- 11：50～12：15（５）佐藤和宏（東大院生分会）：エネルギー政策をめぐる対立軸とその構造

【3】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part17—

・設置責任者：矢作英夫（武蔵野通研分会）、長田好弘（武蔵野通研分会）、久志本俊弘（大阪支部）

・連絡先：to4ksmt あ yahoo. co. jp（久志本） ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：政府の「大軍拡予算」「秘密特許制度法」「産官学軍体制」に加えて、昨年「経済安保情報保護法案営業秘密保護法」制定、学術会議法の「解体」再編成などとともに、軍事研究費の激増、軍需関係の企業活動も活発化している。また、気候危機対策、コロナパンデミック（SARS-CoV-2）対応、リニア新幹線建設などでの、政府や大企業の対応は、科学・技術の知見を無視したまま、国民を路頭に迷わしている。原発問題では「将来は廃止」という言葉すらなくして、「既設の再稼働と更新、新型開発」として、国民の願いとは逆の方向へ転換している。また、PFAS問題、生成AI問題、マイナカードでの「デジタル化社会」強行など、これらは生活の場で多くの問題を引き起こし、科学技術の視点からの現状批判もますます重要になりつつあり、本質的な議論が求められている。これらは、国民の喫緊の課題であり、広範な国民各層との共有が重要であり、JSAの情報発信の在り方も含めて論議したい。民間技術者研究者問題委員会の責任で、前回は昨年の第25回総合学術研究集会の分科会として実施し、今回はその継続でシリーズ17回目として実施する。

12月7日（日）13：15～15：30 GG503号

座 長：矢作英夫（民間技術者研究者問題委員会）

13：15～13：20 分科会設置あいさつ 久志本俊弘（民間技術者研究者問題委員会）

13：20～13：50（１）○亀山孝二（東京支部・個人会員）、渡辺顕治（東京支部・個人会員）：三木清の構想力の論理の主体と今日の深刻な情報過剰下での問題（未測と非可測性）への注目

13：50～14：20（２）野村康秀（特許庁分会、科学・技術政策委員会）：「科学の再興」と安全保障戦略との連携を掲げる第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定作業

14：20～14：30 <休憩>

14 : 30～15 : 00 (3) 矢作英夫 (武蔵野通研分会) : 自治体情報システムの経費負担問題

15 : 00～15 : 30 (4) 久志本俊弘 (大阪支部・関西技術者懇談会) : 地方自治体の廃棄物処理問題
～特に忠岡町の一般廃棄物と産業廃棄物の混焼式施設建設問題～

【4】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part18—

- ・設置責任者 : 長田好弘 (武蔵野通研分会)、松永光司 (武蔵野通研分会)
- ・連絡先 : matsunaga_mitsushi あ hotmail.com (松永) ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨 : 政府は今年 6 月、日本学術会議を現在の「国の特別機関」から「特殊法人」へ移行させる「日本学術会議法人化」法案を、日本学術会議の自身の強い懸念や異議、科学者や市民の反対を無視して、賛成多数で成立させました。これは日本学術会議創設以来の「軍事研究は行わない」決意を蹂躪し、御しやすい体勢への変質を狙ったもので、容認できません。

また先の参議院選挙では、外国人差別や女性差別を煽り、果ては日本の核武装を煽るフェイクと差別、排外主義の言説が、参政党ら一部候補者によって大量に振りまかれ、選挙結果にも影響を及ぼしました。社会の民主的な発展のために、デマと差別の蔓延を許さない取り組みが求められます。

これらは、利用が急速に広がるインターネット、生成 AI など先端技術をどう社会生活に組み入れるか深い議論を求めています。いまとりわけ科学の正しい発展のための研究条件の確保が必要です。個々の問題で意見の相違が生じようとも、リスペクトをもって率直な意見交換をおこないましょう。

12 月 7 日 (日) 13 : 15～16 : 00 GG504

座 長 : 松永光司 (武蔵野通研分会)

13 : 15～13 : 20 座長あいさつ

13 : 20～13 : 50 (1) 松永光司 (武蔵野通研分会) : 日本学術会議法人化の狙いと屈しない運動

13 : 50～14 : 20 (2) 増澤誠一 (特許庁分会) : 変わる知的財産事情 2025

14 : 20～14 : 30 <休憩>

14 : 30～15 : 00 (3) 土屋十圀 (前橋工科大学名誉教授) : 激甚化する豪雨と生活環境の水災害
リスク要因を考える

15 : 00～15 : 30 (4) 小金澤鋼一 (東海大学分会) : ロシア・ウクライナ戦争での AI を搭載した
自律型兵器の現状

15 : 30～16 : 00 (5) 野村康秀 (特許庁分会、科学・技術政策委員会) : 世界第 3 位の科学技術
予算と世界 13 位の論文数(Top10%)の「ギャップ」を考える

【5】生成 AI の社会生活への浸透は何をもたらすのか

- ・設置責任者 : 米田貢 (個人会員)
- ・連絡先 : myoneda330 あ gmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨 : 生成 AI が大規模言語モデルを開発したことによって、様々な AI が人間社会のあら

ゆる領域に浸透しつつあります。産業革命を経て現代では、人間の肉体的労働（主に手足の使用に基づく）の補完・代替を行う機械が労働過程だけでなく人々の市民生活にも広範囲に浸透しています。生成 AI を駆使する現在の ICT 革命は、人間の知的労働（主に脳の使用に基づく）を社会生活のあらゆる領域で保管・代替しつつあります。問題は、それを利用する多くの人々が、AI との「会話」を通じて AI を機械ではなく「心を持った人間」と錯覚する状況が生まれていることです。この事態を、科学者としてどう考えるべきかを議論したいと思います。

12 月 7 日（日）13：15～18：00 GG503 号

座 長：米田 貢（中央大学名誉教授）

15：45～15：50 座長あいさつ

15：50～16：40 （1）金谷義弘（宮崎大学名誉教授）：生成 AI とは何で、社会経済の構造に如何なる影響を与えるか？－生成 AI、その技術的基盤、社会経済構造、社会的効果－

16：40～17：30 （2）兵藤友博（立命館大学名誉教授）：ICT 時代の到来の公教育を考える

17：30～18：00 討論

【6】リニア中央新幹線の現状と課題

・設置責任者：橋本良仁（高尾分会）

・連絡先：cap-mt.takao あ nifty.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：2014 年 7 月、日本科学者会議は、「リニア中央新幹線計画の撤回・中止を求める」声明を発表した。JR 東海は東京・名古屋間の開通を 2027 年度としていたが、建設の進捗は 1/3 にとどまっている。昨年 JR 東海は開通年度を 2034 年度以降と修正したが、全線の 9 割を占めるトンネル掘削は、当初予想した以上の困難さに遭遇している。

これまで、リニア問題研究委員会は、総合学術研究集会や東京科学シンポジウムでリニア分科会を設置し、リニアに関わる研究者や市民団体の意見交換の場としてきた。

リニア建設の現状や問題点を明らかにし、今後の課題を探りたい。

12 月 7 日（日）10：00～12：15 GG604 号

座 長：橋本良仁（東京支部高尾分会）

10：00～10：05 座長あいさつ

10：05～10：35 （1）川村晃生（ストップ・リニア！訴訟原告団長）：

リニア新幹線の現状と未来

10：35～11：05 （2）関島保雄（ストップ・リニア！訴訟弁護団共同代表）：

訴訟の経緯、現状と課題

<休憩>11：05～11：15

11：15～11：45 （3）林 克（リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク共同代表）：

静岡工区における要対策土の危険

11：45～12：15 （4）前田定孝（三重支部）： 迷走する？ 名阪区間

<昼食休憩> 12 : 15 ~ 13 : 15

13 : 15 ~ 13 : 45 (5) 井澤宏明 (ジャーナリスト) :

岐阜県瑞浪市の水枯れ、地盤沈下、その後

13 : 45 ~ 14 : 15 (6) 桜井 徹 (日本大学名誉教授) :

リニア中央新幹線における環境権と交通権・移動権

14 : 15 ~ 14 : 45 (7) 大塚正幸 (JSA 東京支部) :

なぜ、リニアに反対するか—解消されない多の問題点を総括する

14 : 45 ~ 15 : 15 (8) 檜田秀樹 (ジャーナリスト) :

アメリカのリニア計画中止の背景

15 : 15 ~ 15 : 30 総合討論

【7】ポスト冷戦後の国際政治経済秩序をめぐる

・設置責任者：森原康仁 (個人会員)

・連絡先：ya.morihara @ gmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：今年 2025 年 1 月に「トランプ 2.0」が始動して 1 年弱経過した。その衝撃の大きさは広く知られるところである。①20 世紀初頭の「勢力圏」の思想を彷彿させる主張、②第二次大戦後蓄積されてきた制度や規範を根底から覆すような発言、③DEI (多様性・公平性・包摂性) を目の敵にした国内政策など枚挙にいとまがない。これらは、社会の全領域に及んでおり、しかも現在進行形なので総合的・学際的な検討が不可欠である。もっとも限られた時間内ですべてを扱うことはできない。そこで、本分科会では、とくにトランプ 2.0 が戦後国際政治経済秩序をどのように変革しようとしているのかを中心に、トランプ 2.0 のインパクトを学術的に議論する場を提供したい。

12 月 7 日 (日) 15 : 45 ~ 18 : 00 GG602 号

座 長：森原康仁 (専修大学)

15 : 45 ~ 15 : 50 分科会設置あいさつ 森原康仁 (専修大学)

15 : 50 ~ 16 : 35 (1) 森原康仁 (専修大学) : 「力の支配」に揺れる国際政治経済秩序

16 : 40 ~ 17 : 20 (2) 原民樹 (早稲田大学) : 地政学的緊張とグローバルサウス

17 : 25 ~ 17 : 35 (3) 井上史 (埼玉大学) : コメント

17 : 35 ~ 18 : 00 討論

【8】激動する世界と日本経済

・設置責任者：村上研一 (中央大学分会)

・連絡先：murakami @ tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：第 2 次トランプ政権が発足し、各国に対する一方的関税措置、また国際紛争への介入など、自由貿易・グローバリゼーションを基調とする国際関係が一変している。日本経済は数年来の円安と物価上昇、トランプ関税、また台頭する中国産業や米中対立によって翻弄され、人々

の生活の悪化が続いている。本分科会では、このように激動する情勢の中での世界経済そして日本経済の諸相に関して、報告と討議を通じて検討したい。

12 月 6 日（土）10：00～12：15 GG503 号

座 長：村上研一（中央大学）

10：00～10：30（1）村上研一（中央大学）：日本経済の衰退とその要因

10：30～11：00（2）江川章（中央大学）：日本農業の政策展開と構造変化

11：00～11：30（3）安斎琢磨（中央大学・院）：日本のデジタルサービス赤字の現状とその要因

11：30～11：40 休憩

11：40～12：15 討議

【9】新自由主義が横行する福祉分野での小規模福祉事業所の経営実態と労働者の賃金・労働条件

・設置責任者：米田貢（個人会員）

・連絡先：myoneda330 あ gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：日本では、市場・利潤原理の新自由主義の政治が社会福祉・社会保障の分野で横行し、社会的弱者を救済・支援する福祉法人は経営悪化に追い込まれ、小規模・零細の多くの事業所が倒産・廃業している。これらの福祉法人では動労者の多くが非正規雇用形態で働いており、彼らの賃金水準は低い。介護職員の賞与込み給与は 29.3 万円であり、全産業平均 36.1 万円より月額で約 7 万円も低い。この低賃金に劣悪な労働条件が加わり、介護職員不足は 2025 年度で 32 万人不足している。本分科会では、労働者の基本的権利を守りながら社会的弱者の支援・救済のために懸命な営業努力を行っているいくつかの事業所から、経営実態と労働者の賃金・労働条件を報告もらい、問題打開の方途を探る。

12 月 7 日（日）10：00～12：15 GG504 号

座 長：米田 貢（中央大学名誉教授）

10：00～10：10 座長あいさつ

10：10～10：50（1）小林裕子（NPO ゆぎの里 ケースマネージャー）「小規模福祉事業体の経営と労働の実態」

10：50～11：30（2）小尾晴美（中央大学 助教）「自治体による独自施策の違いからみた保育提供体制の課題 - 保育士配置自治体間比較から -」

11：30～11：45 コメント 垣内国光（明星大学名誉教授）

11：45～12：15 討論

【10】リレートーク『東京都政の論点』—赤ちゃんが大人になるまで—

・設置責任者：鈴木享子（都政研究会）

・連絡先：m.w.skyok5.kamot あ gmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨：8 つのテーマで、専門から東京都政の論点を報告・提起してもらう。以下、例示で

す。

1. 「チルドレンファースト」「無痛分娩」を推進する東京都と背景にある助産師・助産学の課題
2. 児童相談所をめぐる現状と問題
3. 学校統廃合反対の闘い・現段階と東京
4. 高校無償化の対象は都民だけでいいのか
5. 大学生に対する給付型奨学金設計への要求づくり
6. 東京都で暮らすには 25 歳の生計費調査
7. 全国最賃・東京最賃、東京都への要求の出し方
8. 子どもの未来と 2028 都知事選挙

12 月 6 日 (土) 10:00～12:15 GG602 号

座 長：米田 貢 (中央大学名誉教授)

座 長：野中郁江 (明治大学名誉教授)

10:00～10:05 座長あいさつ

10:05～10:20 (1) 鈴木享子 (都政研究会)：「無痛分娩」を推進する東京都少子化対策事業の誤算と助産学の課題

10:20～10:35 (2) 三浦由佳 (琉球大学大学院保健学研究科修了)：児童相談所一時保護所の子どもたちの健康問題と看護の現状

10:35～10:50 (3) 山本由美 (東京自治問題研究所理事長・和光大学名誉教授)：東京の学校統廃合の動向

10:50～11:05 (4) 吉田孝則 (東京私学教連書記長)：東京都における高校の無償化は都民だけでいいのか

11:05～11:20 (5) 月山富田・赤坂きらり (学費値上げに反対する中大生の会)：学費値上げの動きと学生生活の実態

11:20～11:35 (6) 森 治美 (全労連・全国一般東京地本書記長)：ナショナルミニマムとしての最低賃金—東京で働く労働者・中小企業・生活者に最低限度の生活保障を—

11:35～11:50 (7) 中村修一 (東京春闘共闘会議事務局長)：慎ましくも、余暇も楽しむ普通の暮らし最低賃金 2,000 円—2025 年最低生計費試算アップデート結果—

11:50～12:15 討論とまとめ

【11】(設置者側の事情により欠番)

【12】軍学共同の現段階と対抗運動の課題

- ・設置責任者：多羅尾光徳 (東京農工大学分会)
- ・連絡先：tarao あ cc. tuat. ac. jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・**設置趣旨**：2024 年には防衛イノベーション科学技術研究所が発足し、2025 年 6 月には防衛省に防衛科学技術委員会が設置されるなど、軍学共同の動きが着々と進められている。それに対応するがごとく、経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）や安全保障技術研究推進制度に大学・国立研究機関から多数の応募があることに示されるように、軍事研究や軍事技術への応用が強く疑われる研究に対する科学者の警戒感が低下してきているように見える。「なぜ軍事研究に手を出してはならないか」をあらためて問い直す必要があるのではなかろうか。近年の軍学共同の動きを総括し、平和のための学問・研究のために何をなすべきかを語り合う場としたい。

12 月 7 日（日）15：45～18：00 GG604 号

座 長：多羅尾光徳（東京支部・東京農工大学）

15：45～15：50 座長あいさつ

15：50～16：35（1）井原 聡（東京支部・個人会員）：学術研究体制を変質させる忍び寄る軍事研究体制—先端科学・技術分野を囲い込む戦時立法スパイ防止法案の危険に触れて—

16：35～16：40 <休憩>

16：40～17：25（2）河村 豊（東京支部・個人会員）：デジタル軍産複合体の動向

17：25～18：00 総合討論

【13】大学の若手研究者による研究・運動交流

・**設置責任者**：佐川清隆（東京支部若手教員有志）

・**連絡先**：kinomotosakura0401 あ hotmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・**設置趣旨**：若手教員の交流促進のため、2024 年度から東京支部の有志で企画をしています。2025 年 2 月にはオンラインで「若手教員の生活を語り合う」を実施し、研究・教育やキャリアパス、子育てなど様々なことを語り合いました。科研費ピアレビューも進行中です。改めて、若手教員が大学改革の下で様々な困難がある中でも、多様な魅力的な研究や社会運動を進めていると実感しています。本分科会は、そうした大学における若手の研究や教育の鋭い問題意識を交流する場とします。概ね 45 歳以下の大学教員・研究者の方からの発表をお待ちしています。

12 月 7 日（日）13：15～15：30 GG601 号

座 長：横井夏子（作新学院大学女子短期大学部）

座 長：佐川清隆（東大院生分会）

13：15～13：20 座長あいさつ

13：20～13：40（1）佐川清隆（東大分会）：一人ひとりを大切にする JSA 若手教員交流を目指して

13：40～14：05（2）塩田 潤（日本学術振興会特別研究員・龍谷大学）：ジェンダー政治の発展—アイスランドのフェミニスト・サイクル

14：05～14：30（3）後藤 篤（宮城大学）：大学での「教育実践」—看護系大学の教職課程での 5 年間の試み

14 : 30～14 : 40 <休憩>

14 : 40～15 : 05 (4) 矢作 侃 (東大院生分会) : 授業料値上げ問題と SPRING 国籍要件問題に見出された学生と研究者による運動の発展

15 : 05～15 : 30 (5) 梶原 渉 (一橋大学) : 絶望を抱きしめて——院生自治会再起動に向けた苦闘

【14】非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part3

・設置責任者 : 衣川清子 (個人会員)

・連絡先 : kinu_k716 あ yahoo.co.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨 : これまで 2 回の当分科会では、雇用安定に向けての非正規教職員自身の運動について現場からの報告を受け、議論してきた。無期転換を後押しする裁判所判断 (専修大学最高裁判断や大阪羽衣国際大の大阪高裁判決) の出現は歓迎すべきものだったが、後者のその後の最高裁の差し戻し決定により、事態は予断を許さないものとなっている。こうした裁判の現状や、この間のストライキをはじめとする運動を振り返り、今後の展望を議論したい。

12 月 7 日 (日) 10 : 00～12 : 15 GG603 号

座 長 : 衣川清子 (個人会員)

10 : 00～10 : 05 座長あいさつ

10 : 05～10 : 35 (1) 小金澤鋼一 (東海大分会) : 東海大学における非常勤教員雇止め裁判闘争

10 : 35～11 : 05 (2) 衣川清子 (個人会員) : 非常勤講師によるストライキの可能性

11 : 05～11 : 15 <休憩>

11 : 15～12 : 15 質疑応答、参加者からの話題提供

【15】日本の大学問題を考える

・設置責任者 : 佐久間英俊 (中央大学分会)

・連絡先 : hsakuma001k あ g.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・設置趣旨 : 日本の高等教育の迷走が止まらない。軍備拡張とは裏腹に政府は教育予算を抑制・削減し、学園や研究機関に慢性的な資金不足を招いた。学生は高学費に苦しみ、教職員は不毛な競争で分断され疲弊している。政策的な自治破壊が学園トップによる専断的運営を強め、混乱に拍車をかけている。政府は自らの失政責任を現場に転嫁するため改悪が止まらない。当分科会は日本の高等教育が抱える問題を様々な側面から考察し、解決策を検討する。

12 月 7 日 (日) 10 : 00～12 : 15 GG 503 号

座 長 : 小澤隆一 (個人会員)

座 長 : 佐久間英俊 (中央大学分会)

10 : 00～10 : 05 小澤隆一 (個人会員) : (座長解題) 大学教育の危機と苦難をどう打ち破るか
—現状の課題と展望

10 : 05～10 : 35 (1) 高野和子 (明治大学名誉教授) : 高等教育の中の教員養成

- 10 : 35～11 : 05 (2) 金澤伶 (東京大学教養学部学生) : 全国に広がる学費値上げ反対運動
～現場の学生の声と取り組み～
- 11 : 05～11 : 15 <休憩>
- 11 : 15～11 : 45 (3) 藤田実 (桜美林大学名誉教授) : 高等教育政策は私大の現場に何を
もたらしたのか——桜美林大学を事例に
- 11 : 45～12 : 15 討論

【16】日本科学者会議における会員の人権尊重の検討～ハラスメントを考える～

- ・設置責任者 : 中島明子 (はづきの会)
- ・連絡先 : mamanotanuki あ yahoo.co.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨 : 東京支部では 2003 年に「東京支部会員の多様性の尊重と人権保障に関する宣言」をまとめた。「マイノリティの会員が安心・安全に活動できる組織づくりとハラスメント相談委員会の設置の提案」がなされ、多様性検討委員会を設けてまとめたもの。相談窓口の設置等は今後の課題としたが、ハラスメント問題が発生した現在、ハラスメントの正確な知識と、JSA だからこそ有効な防止策と問題が起こった際の対策について検討したい。

12 月 7 日 (日) 13 : 15～15 : 30 GG603 号

座 長 : 河野公子 (国際総合研究機構)

- 13 : 15～13 : 20 座長あいさつ
- 13 : 20～14 : 20 (1) 大和田敢太 (滋賀大学名誉教授) : ハラスメント対策の原点 根絶するため
- 14 : 20～14 : 30 質疑応答
- 14 : 30～14 : 40<休憩>
- 14 : 40～14 : 55 (2) 中島明子 (はづきの会) : 東京支部における会員の人権尊重の取り組みからハラスメントの防止へ
- 14 : 55～15 : 10 (3) 大竹美登利 (はづきの会) : ハラスメント対策の経験からハラスメントの防止へ
- 15 : 10～15 : 30 全体討論・まとめ

4. ポスターセッションの募集 (会員控室内) F405、GG501 号

- ・統括設置責任者 : 日本科学者会議東京支部事務局
- ・設置趣旨 : 東京支部の分会、個人会員、若手・院生、女性研究者などの活動概要を広く会の内外に紹介します。
- ・シンポジウムの開催期間中、会員控室にポスターを掲示する予定です。
- ・ポスター発表希望の方は 11 月 30 日までに実行委員会 (23rd-kagaku あ jsa-tokyo.jp) にご連絡ください。

5. 展示（シンポジウム期間中開催）

- ・日本・キューバ友好の展示とイベント——キューバに関する知見や文化を紹介！多面的にキューバを体験してください！（GG502 号）
- ・似顔絵コーナー 12 月 6 日、7 日の 11:00～17:00 に会員控室（F405、GG501 号）に開設予定。お一人 1000 円で似顔絵を描いてもらえます。モデルとして座る時間が取れない場合などは、スマホ撮影し写真から描いてもらうことも可能です。
- ・その他、9 条科学者の会などに出展を打診中。

6. 懇親会

- ・日時：2025 年 12 月 6 日（土）18:20～20:20（20:00 中締め予定）
- ・場所：中央大学多摩キャンパス 1 号館 1410 号（予定）
- ・参加費：「9. 参加費」を参照ください

7. プレ企画イベント

- ・平和のための音楽コンサート ミューズの里
- ・日時：2025 年 11 月 26 日（水）14:30～16:30
- ・場所：パルテノン多摩オープンスタジオ（多摩市落合 2-35）
- ・アクセス：小田急線・京王線「多摩センター駅」、多摩モノレール「多摩センター駅」から徒歩約 5 分。
- ・内容：歌、ギター、トーク
 - ①いのちの音色—歌とギター演奏・被爆体験の朗読（ミューズの里：中村里美シンガーソングライター/映画製作・プロデューサー・監督、伊藤茂利ギタリスト・作曲家/映画製作・音楽監督・プロデューサー）
 - ②トーク（交渉中）
- ・定員：先着 100 名
- ・会費：無料 ※後述する募金にご協力ください
- ・申込先：日本科学者会議東京支部ホームページから

8. 開催日程と主な企画

	午前	午後Ⅰ	午後Ⅱ	夜
--	----	-----	-----	---

	10:00～12:15	13:15～15:30	15:45～18:00	18:20～20:20
12 月 6 日 (土)	分科会 1	開会式 特別報告 I 特別報告 II		懇親会
12 月 7 日 (日)	分科会 2	分科会 3	分科会 4	

上記はシンポジウムの主な企画の概要です。閉会式や新たな企画が加わるなど細部は若干変更になる可能性があります。

企画参加者は誰もが事前に参加登録する必要があります。東京支部ホームページ(<http://jsa-tokyo.jp/>、トップページの右側) から登録してください。

9. 参加費 ※募金にもご協力ください

	シンポ参加費	懇親会費
一般	2000 円	3000 円
院生・学生	無料	1500 円

オンラインでのみ参加される方の参加費は無料です。

シンポジウム開催には会場費、通信費、印刷・宣伝費など諸経費が必要です。これらは東京支部のシンポジウム開催予算と皆さまからの参加費をあてますが、それらだけでは不足してしまう見込みです。募金にご協力をお願いします(1 口 1000 円で何口でも結構です)。

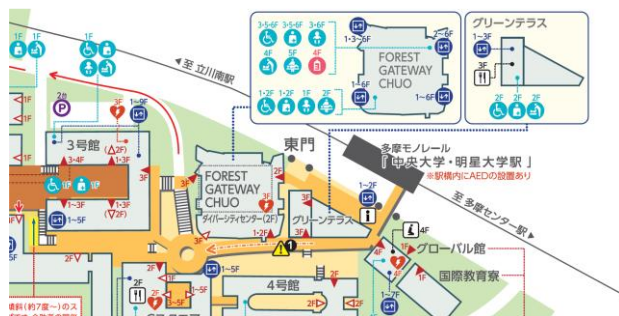
会員や会誌読者の方は、10 月の会誌等発送に同封した振り込み用紙で募金にご協力ください。参加登録をしていただいた方にもメールでご案内いたします。

※昼食用の弁当販売はしません。土曜日は学生食堂や教職員食堂、学内売店などが昼休み時間帯は営業する見込みですが、日曜日は学内の営業はありません。大学近辺には、モノレール駅構内に小さなコンビニが 1 店あるのみです。昼食を持参いただくようお願いします。

10. 本シンポジウムへの参加方法

(1) 会場へのリアル参加

今回の東京科学シンポジウムは会場でのリアル開催を基本としています。ぜひ会場へお越しください(メイン会場のグローバル館はモノレール駅改札から徒歩約 20 秒です)。



参加希望者は JSA 東京支部ホームページの専用コーナーから事前に参加登録を行います。参加登録いただいた方に実行委員会からウェブ上の資料置き場（予稿と報告レジュメ、図表などの資料など）へのアクセス方法をお知らせします。

当日会場でも参加を受けつける予定ですが、その場合は、ウェブ上に設けた資料へのアクセスは保証されません。

（２）オンラインでの参加

特別報告と一部の分科会には、オンラインでも参加できます。オンラインへのアクセス方法は参加登録を済ませた方にメールでお知らせします。

分科会のオンライン開催は、分科会ごとに対応しております。質問の受付など当日の運営については、当該会場の座長や司会者の指示に従ってください。

11. 予稿集の入手方法

（１）予稿集（電子版）や関連資料はウェブ上の資料置き場から無料でダウンロードできます。11 月末頃、参加登録者に資料置き場へのアクセス方法をメールでお知らせします。

（２）予稿集（冊子版）は実費負担で希望者に頒布します（1 冊 2500 円、送料込み）。参加登録時にお申し込みください。予稿集の申し込みを 10 月 31 日までとしていましたが、残部がある範囲でそれ以降の希望者にも頒布いたします。希望者は、実行委員会までメールでご相談ください。

12. 今後のスケジュール（予定）

- 11 月 10 日 3rd Circular 発行（最終プログラムを公表。参加者を募集）
- 11 月 26 日 事前企画 平和のための音楽コンサート（パルテノン多摩オープンスタジオ）
- 11 月末頃 オンライン参加の方法について案内
- 12 月初旬 予稿集（冊子）発行

参加登録者に電子ファイルを無料ダウンロード、冊子は有料頒布で指定住所へ送付します

- 12 月 6 日～7 日 第 23 回東京科学シンポジウム（中央大学多摩キャンパス グローバル館）

東京科学シンポジウムは東京支部の今期最大の企画です。
会員が日頃の研究の成果を発表する場でもあります。
実行委員会は市民とともに成功させようと位置づけています。
非会員の方もお誘い合わせのうえ、気軽にご参加ください。

※お詫びと訂正

1st Circular と 2nd Circular に以下の誤りがありました。お詫びして訂正します。

1) 誤 : 「日本の GDP は世界の 38 位にまで低下しています。」(委員長挨拶、1st Circular、p. 1)

正 : 「日本の 1 人当たり GDP は世界の 38 位にまで低下しています。」

2) 誤 : 「〒113-0034」(実行委員会住所、1st Circular、p. 4 および 2nd Circular、p. 16)

正 : 「〒113-0023」

第 23 回東京科学シンポジウム実行委員会

実行委員長：米田貢（支部代表幹事）

事務局長：佐久間英俊（支部事務局長）

実行委員：青木和光（支部常任幹事）、江川章（支部幹事）、衣川清子（支部常任幹事）、佐川清隆（支部幹事）、佐藤和宏（支部幹事）、多羅尾光徳（支部常任幹事）、堂野崎衛（拓殖大学分会）、中島明子（支部代表幹事）、松尾一郎（支部幹事）、森原康仁（支部常任幹事）、森山洸（支部常任幹事）

2025 年 11 月 1 日時点

日本科学者会議東京支部 第 23 回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-1-17 タカサキヤビル 5 階

Tel/Fax : 03-5615-8703

e-mail : 23rd-kagaku あ jsa-tokyo.jp ※送信時は「あ」→「@」
